

5月31日～6月2日、東京にて、第12回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議が開催されました。会議には韓国・フィリピン・インドネシアから5人の被害者が、中国から2人の被害者遺族が参加し、その他にも台湾、フィリピン、インドネシア、東チモール、オランダの計8カ国から被害者の支援団体が集まりました。そして、いま日本軍「慰安婦」問題解決のために何が必要か、日本の運動団体と共に討議し、「日本政府への提言」と「決議文」をまとめました。



「日本政府への提言」と分厚い史料を、被害者と政府に提出

インドネシアの被害者、スリさんの被害年齢は9歳…慟哭し、混乱し、なにも語る事ができなかった。



韓国の金福童ハルモニ

こんなに時間がかかるかわかっていたら、名乗り出ていなかった。私たちがいて、こうやって証言しているというのに、他に何の証拠が必要というのか?! 過ちを清算する義務が安倍首相にある。



フィリピンのロラ・エステリータ

安倍首相は「強制性がない」と言うけど、全くのウソです。私がそうです。

6月20日、安倍政権は「河野談話の検証」を発表しました。河野談話が発表されたのは1993年、それからの21年間に、日本軍の関与や強制性を示す証拠はたくさん発見されています。

安倍政権は、河野談話を否定し、「強制性がなかった」「軍の関与がなかった」と歴史を変えたがっていますが、歴史の事実は明らかです。

私たちは「日本政府への提言」の中で、歴史事実を認め、被害者へ謝罪し、賠償し、さらなる真相究明を行い、教科書への記述などの再発防止措置をとるよう求めました。

そして6月2日、被害者たちと共に、「提言」と決議文、そして河野談話発表以降に発見された歴史資料を日本政府に提出しました。

河野談話の否定を許してはなりません。今必要なのは「河野談話の検証」ではなく、河野談話よりもより明確に責任を認めたとでの、謝罪と賠償です。

8月24日のライブ・イン・ピース@カフェでは、被害者の訴えを再び胸に刻み、私たちが何をすべきか考えたいと思います。

日時 8月24日(日) 13:30~16:30
場所 西成区民センター (地下鉄「岸里」下車すぐ、地下鉄・南海「天下茶屋」下車徒歩5分)
主催 リブ・イン・ピース☆9+25
 TEL 090-5094-9483 E-mail liveinpeace_heiwa@yahoo.co.jp
 HP <http://www.liveinpeace925.com>